

## 牧 慎太郎 兵庫県企画県民部長

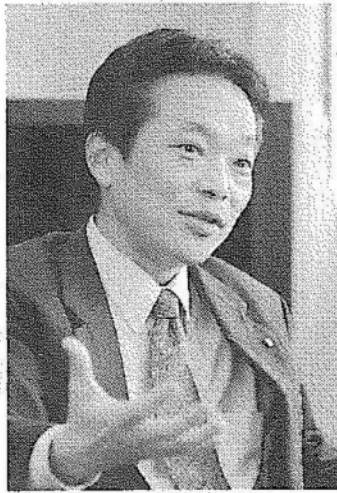
# 人と人のつながり再生

地域の活性化、コミュニティの再生をめざして、兵庫県では地域SNSやワンセグ放送などを活用しながら、地域情報化の事業を推進している。2009年度には、地域ICT活用モデル構築事業を活用し、「放送・通信融合による子育て情報提供システム」に取り組んでいる。地域情報化施策を担当する兵庫県企画県民部長の牧慎太郎さんに聞いた。

地域社会の人間関係が希薄化する中、「地域SNS」を活用し、住民の地域参加を促進できるとはと考えた。登録メンバーの顔が見える地域SNSは、

人と人がつながり、安心してコミュニケーションスペースとなっている。

兵庫県エリアの地域SNS「ひよこむ」は開設から3年あ



まりで会員は5500人を超え、市町単位に連携サイトが立ち上がるなど、全国でも最先端の取り組みだ。

昨年8月の台風9号災害では、宍粟市、佐用町が大きな被害を受けた。地域SNSによって、マスコミでは報道されない被災地の情報がリポートされ、古いタオルを送るプロジェクトなどの支援が広がった。

地域SNSの情報がパソコンや携帯電話だけではなく、デジタルテレビやカーナビでも見られるように取り組みを進めてい

る。

エリア限定ワンセグ放送にも積極的に取り組んでいる。携帯電話を主な情報ツールにしているいまの子育て世代などにとって受け入れられやすい。また、災害時にも威力を発揮できるだろう。アクセスが集中すると話まってしまう通信と違い、放送波を流すワンセグは大勢の人々が同時に見ても大丈夫だ。

いずれの取り組みも、地域に密着した情報を住民が発信する「情報コンテンツの地産地消」をめざしたもので、地域

住民の顔が見えることが安心感と信頼感につながる。

県では、地域活動への参加をポイント化し、集めたポイントに応じて、美術館などの入場券と交換できたり、県の補助金が加算される「ひよこポイント」をはじめ、地域SNSとともに、住民の地域活動参加を促している。

本来「通信」とは決して無機質なものではなく「信を通じるコミュニケーションの略語。ICTを使って、人と人とのつながりをもつ一度紡ぎ直したい。